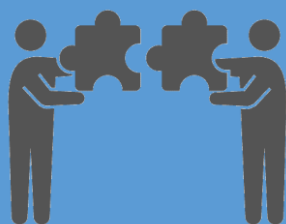


“転ばぬ先のチエ”
きっと見つかる



小売業編

SAFE

Safer
Action
For
Employees



職場の災害防止対策ヒント集

“ケガをしない職場”のためにできることから始めませんか



北海道小売業SAFE協議会・  北海道労働局

「SAFE」は働く人だけでなく、家族、事業者、地域のすべての人の幸せのために、労働災害を改めて社会問題としてとらえ、顧客も含めたステークホルダー全員で解決策を考え、取り組んでいくための活動体です。

○ポイント

- ・**労災ハザードマップ**を作製し、可視化した。
- ・機械等の横にオリジナルの**危険ステッカー**を貼った。



○ハザードマップ



○危険ステッカー



- リスクアセスメントやヒヤリハットを実施する中で、より従業員に危険箇所を知らせるとともに、危険箇所を可視化するため「**労災ハザードマップ**」を作成しています。
- 店内における労働災害で発生頻度の高い作業を洗い出し、それに該当する道具や場所にオリジナルの「**危険ステッカー**」作成して貼っています。

○ハザードマップを作るにはみんなの意見を聞くから、**問題意識が高まったり**、情報共有になっていいね。

○オリジナルのステッカーを貼るとポイントがよく伝わるし、最近雇用されてハザードマップを知らない人でも危ないところがわかっていいね。



てんとう防止君

「冬のゼロ災運動」で 凍結路面での転倒防止！

事例 2



〇ポイント

- ・冬の転倒災害を徹底的に調べ、**傾向**を洗い出した。
- ・洗い出したポイントを**ポスター**にして掲示し、注意喚起した。

冬のゼロ災運動 実施中

イオン北海道は毎年12月～3月にかけて、凍結路面による転倒災害が増加します。この期間に発生している労働災害の約40%を占めています。転倒災害のケガは重篤化することが多く、復帰までに多くの日数がかかってしまう事も珍しくありません。今年も「冬のゼロ災運動」の発生を防ぐために、「冬のゼロ災運動」を実施いたします。

- 実施期間 2021年12月1日 ～ 2022年3月31日
- 重点取組 通勤途中及び店舗敷地内の転倒災害
- 取組目標 冬の転倒災害を昨年比50%にする

特徴① 転倒災害は「歩道」で多発！！
※転倒災害の約50%は歩道で発生しています。特に除雪直後の歩道や踏み固められた場所、坂道・段差など平面でないところで発生している確率が高いです。

特徴② 転倒災害は「出勤時」に多発！！
※転倒災害の約30%は朝7～9時間に発生しています。7時前の出勤時間を加えると、50%を超える発生率となっています。前日プラスの気温になって、取冷え込んだ次の日の朝は要注意です。

特徴③ 転倒災害で「骨折」が多発！！
※転倒災害の約40%は骨折しています。復帰すると、復帰までに長期間の療養が必要になります。

特徴④ 転倒災害は50代以上が要注意！！
※転倒災害の約80%は50代以上の方で占めています。加齢による「身体強度」や「運動機能」が低下するは統計的に判明しており、留意は特に注意が必要です。

作成：人事企画

冬は路面が凍結していることも
あるから特に注意！



冬のゼロ災運動 実施中

イオン北海道は毎年12月～3月にかけて、凍結路面による転倒災害が増加します。この期間に発生している労働災害の約40%を占めています。転倒災害のケガは重篤化することが多く、復帰までに多くの日数がかかってしまう事も珍しくありません。今年も「冬のゼロ災運動」の発生を防ぐために、「冬のゼロ災運動」を実施いたします。

見直そう。通勤時の服装

冬の転倒災害の約40%は骨折しています。万一、転んでしまった時でも、防傷がかったした服装をすることでケガの程度を軽減できることがあります。

【理想的な冬の通勤時の服装】

- 帽子や手袋、マフラーを身に付けて、なるべく顔を出さないようにしましょう。また、万一転倒した時も体を守ってください。
- コートは中綿入りのもやダウンコートがおすすめです。転んだ際、ショックを和らげてくれます。
- 靴は「冬靴」を履きましょう。すべらない、ぬれない、暖かい靴を履きましょう。
- かばんはリュックがおすすです。転んだ時のクッションになります。

イオン北海道 安全対策推進部 作成

冬のゼロ災運動 実施中

イオン北海道は毎年12月～3月にかけて、凍結路面による転倒災害が増加します。この期間に発生している労働災害の約40%を占めています。転倒災害のケガは重篤化することが多く、復帰までに多くの日数がかかってしまう事も珍しくありません。今年も「冬のゼロ災運動」の発生を防ぐために、「冬のゼロ災運動」を実施いたします。

身に付けよう。転びにくい歩き方

冬の転倒災害の約50%は通勤時に歩道で転倒することによって、発生しています。転びにくい歩き方を覚えて、冬の転倒災害を減らしましょう。

【転びにくい歩き方のポイント】

- 小さな歩幅で歩く
歩幅が大きいと足が深く入ります。そうすると転倒しやすいです。裾りや浅いところは小さな歩幅で歩きましょう。
- 足の裏全体をつけて歩く
指先だけで歩くと、重心の前において足の裏全体を地面につけようとして歩きます。
- 足がら歩行しない
スマホを操作しながら歩いたり、ポケットに手を入れたら転倒リスクが非常に高くなります。
- 急がず、焦らず
歩き方を理解していても、焦っていて余裕のない時は足がけになります。歩幅をもっと行間しましょう。

イオン北海道 安全対策推進部 作成

- 社内で発生した「転倒災害」の傾向を徹底的に調べました。



- 従業員に対して「転倒災害」の傾向と防止対策をポスター等にして
掲示周知することで労働災害が少しでも減るように取組みを行いました。

〇転倒するのは当たり前、と思わずに傾向を分析した結果
特徴や対策がでてきたね。
〇転倒災害は気を付けてもらうことが重要なので、熱意が
伝わるね。



てんとう防止君



「労災トピックス」を 作成し周知



〇ポイント

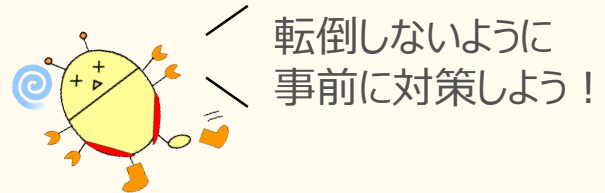
- ・安全衛生委員会で「**労災トピックス**」を作成し注意喚起した。

危険

こんなクツ底減りになっていませんか？

**新しいクツ
申請してください。**

北雄ラッキー安全衛生委員会



労災トピックス
11月7日発生事案

（グロサリー部）
B円で飲料水の在庫整理中、動きやすいカゴテナを無理に動かしたら、中の飲料水のケースが自分に落下。腕に打撲

「対策」
カゴテナや重い物の移動・荷下ろしは1人で行わず、複数で行うか、少しずつ分けてやりましょう。

労災トピックス
12月4日発生事案

（グロサリー部）
帰宅時、車に向かっている途中、右足が前に滑り、左足に体重がかかり転倒。骨折していた。

「対策」
朝晩の路面や駐車場は特に滑りやすくなっています。十分、注意して下さい。

※ 歩道の歩き方

1. 歩道の歩幅を狭く
2. 歩道の歩幅を狭く
3. 歩道の歩幅を狭く

●「転倒災害」を防止するため、すり減った靴の取替を促しています。すり減った状態の写真をつけ、新しい靴を申請してください、と解決方法を記載しています。

●「労災トピックス」として労働災害の発生原因や同種労働災害の**再発防止対策**を関係労働者に対して周知徹底を図っています。その際、短い文章で事例が伝わるよう、また、具体的な対策をイラストを入れて記載しています。

〇靴底の写真があるので、自分の靴と**比較**できるし、新しい靴を申請していいんだ、と思わせるね。

〇いつ、どこで**発生**したかがわかるので、別の店舗の人でも同じ部署の人の目を引くね。

イラストが大きいので興味をもつし、内容が伝わりやすいね。





足元から労働災害防止 に向けた取り組みを

事例 4

〇ポイント

・スーパーにおける転倒災害や立ち仕事での疲労蓄積を改善するために、新しく**先芯入りワークシューズ**を開発した。



傷みやすいつま先には
耐久性のある**人工皮革**で補強



ほこりや粉塵がシューズ内に入りにくくするために、**アッパー全体**に人工皮革を採用

- スーパーには、滑りによる転倒や長時間の立ち仕事での疲労、台車での巻き込み事故など、様々な課題があります。
- これらの課題を解決するために、設備等のハード面だけでなく従業員のシューズにも着目し、モニター調査などを経て「先芯入りワークシューズ(JSAA規格)」の導入に至りました。
- 導入の結果、従業員からは「疲れにくい」という評価が多く聞かれました。また、台車での巻き込み事故や転倒事故も、前年比**78%**の減少が見られました。

〇転倒災害防止の役割を果たしながら、従業員の**疲労軽減**まで考えられていてすごいね！

〇お互いの**強みを活かして**災害を防止する取組みがもっと広がっていくといいね。



油の持ち出し対策！ 「シューズブラシ」開発

事例 5

○ポイント

・オリジナルの「**シューズブラシ**」開発により、作業場から売り場への油の持ち出しを防いだ。

○従来のブラシ

表面用



靴裏用



立ったまま片足を上げて使用するが、靴を脱いで使用する必要がある。

○新ブラシ



靴を履いた状態で、足を動かして汚れを落とします。手すりを付けているので安全に使用できます。社内の関連部署メンバーが集まり、**ブラシメーカー様**と改良を重ねました。

●スーパーのデリカ部門ではフライ作業が多いため、シューズ裏に油分やバター液が付着することで、売り場やバックルームにも油が持ち出され、**転倒**の一因となっていました。

●そこでシューズ裏に付着した油分や汚れを除去し、売り場やバックルーム床の清潔化、シューズの衛生管理維持、お客様や従業員の転倒防止のために、**独自のブラシを開発**しました。

○売り場には従業員だけでなくお客様もいるから、このブラシによって多くの方の安全が守られているね！



事故を未然に予見する！ KYT活動

CAINZ

事例 6

○ポイント

・スマホツールを用いて、**KYT(危険予知トレーニング)活動**を行い、事故を未然に防止した。

○KYT活動の一例

12月度KYT(危険予知トレーニング)活動

このイラストは、事故の直前を抜いたものです。

このあとどんな事故が発生するでしょうか。1つ選択してください。



【回答選択肢】

- カゴ車の車輪で足を踏む
- カゴ車が転倒して下敷きになる
- カゴ車の底板が抜ける

※毎月15～25問出題

対象人数
全店舗**(24,000人)**
月間平均実施人数
21,000人(約88%)

- 従業員数が多い販売店等では、特にパート・アルバイトへの安全教育が行き届いていない状況でした。
- そこで、店舗用スマホ端末を使用して、KYT活動を実施し、全従業員が個々のスケジュールに合わせてトレーニングに取り組めるような環境を整えました。
- トレーニングでは、前月の労働災害を題材にすることが可能で、毎月繰り返し実施することで継続的な教育ができるようになりました。

○前月の災害をもとに問題が作成できるので、**現状に合った対策**をとることができるね。

○社員だけでなくパート・アルバイトの方々にも教育が行き届くことで**全体として安全への意識が高まって**いいね。



北海道小売業SAFE協議会・北海道労働局

自律的な店舗安全 推進活動！

CAINZ

事例 7

〇ポイント

- ・店舗ごとの課題に対しテーマを設定し、「**安全対策ワークショップ**」を開催した。
- ・好事例を社内報で紹介し、**水平展開**へつなげた。

災害発生

これまでは・・・

同様の災害が
繰り返し発生していた。



取り組み後は・・・



ワークショップ開催



リスクマップの作成

同様の災害
を防いだ！

対象：220店舗
(全店舗)

- 本企業では安全最優先と言っているものの、同様の事故が繰り返されていました。
- そこで、安全推進リーダーを中心として店舗ごとの課題に対しテーマを設定し、毎月「安全対策ワークショップ」を開催、従業員が**自律的・自発的**に安全最優先な行動がとれる体制の構築を目指しています。
- 好事例は社内報で紹介するなどして**水平展開**へつなげることで、店舗全体の安全意識が高まることや、安全以外の面での**コミュニケーション**も円滑になりました。

〇同様の事故を繰り返さないために**全体として対策**して
いて素晴らしいね！
〇ただ事例の共有をするだけでなく、一人一人が**主体的**
にリスクや対策を考えられていていいね。



てんとう防止君



北海道小売業 S A F E 協議会・北海道労働局

○ポイント

・動画作成により、危険な作業を「文字」ではなく「**動作**」として認識させることで、**誰でもわかりやすく**、安全作業に対する理解度を深めることができた。

○作成動画



動画化により・・・

- ・誰でもわかりやすく、安全作業に対する理解が深まった。
- ・教育の質が画一化され、教育の差が解消された。

労働災害発生件数は
減少傾向！



●これまで従業員への安全教育は、危険箇所や危険作業などが書面上でマニュアル化されたものを用いて行われていましたが、理解度に個人差があることや、教育方法も人によって異なるため、同様の災害が頻発していました。

●しかし、外国人技能実習生の雇入れを機に、安全動画作成に取り組み、言葉ではなく“目”で危険を認知してもらうような教育に切り替えました。

●今では**50本以上**の動画が完成し、**全従業員**に周知しています。

○言葉では伝わりにくい部分も、動画にすることで実際に作業する際に**思い出して実践**することができるね！



事例9 労災予防オリジナルポスターの募集



～各店・各部の取り組みから会社の予防へ～

○ポイント

- ・従業員から「**労災予防オリジナルポスター**」を募集し、応募作品は全従業員が閲覧できるようにした。
- ・なかでも優秀作品については全店に**予防促進事例**として共有した。

○応募作品の一例



従業員

労災予防教育
環境整備

ポスター作成・応募

選考・フィードバック



本部

好事例の共有



店舗

・労災発生件数は微減。次年度以降も継続実施の予定。

- 本企画は、従前から各店舗や個人で実施していた労災予防の取り組みについて、好事例を他店にも共有し、全社的な労災予防につなげていくことを目的に実施されています。
- 従業員作成のオリジナルのポスターを募集し、応募作品から労働環境改善プロジェクトメンバーとゾーン責任者で共有すべき事例を選考します。
- 選ばれた作品は全事業所へ共有され従業員への予防促進へ活用するとともに、その実施状況集約後応募者へフィードバックし、全店への予防促進事例として公開されます。

○従業員が自ら作成することで、現場のリアルな対策を反映することができるね。

○身近な人が作ったポスターは興味が湧くし、**自分も実践してみよう**という気持ちになるね！



てんとう防止君

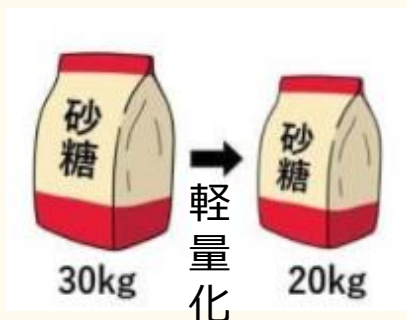


原料袋の軽量化と腰痛ベルトで腰痛予防！

〇ポイント

・腰痛予防のため、運搬重量を**減らす**ことに加え**腰痛ベルト**を支給した。

①内容量の変更(30kg→**20kg**)



②腰痛ベルトの使用



懸念

軽量化により運搬回数が
増え作業効率が低下
するのでは・・・

実際は・・・

腰への**負担が軽減**されたことにより、
作業がスムーズに進み、かえって
効率が良くなった！

●本企業では商品の原料袋などの重量物を持ち上げる際に、急性腰痛症(ぎっくり腰)になる事例が多発していました。

●そこで、原料メーカーに相談し、砂糖類の大部分を一袋あたり30kg→**20kg**に軽量化しました。また、重量物を扱う従業員に腰痛ベルトを支給し、作業中の着用を徹底しました。

●原料の軽量化により、運搬回数が増え作業効率が悪くなる懸念がありましたが、腰への負担が軽くなり、テキパキ動けることで**かえって効率が良くなりました。**

○懸念点があっても実践してみると**かえって良い結果**につながることもあるんだね。

○さらに重量を減らすと**もっと効率が良くなるのか**気になってくるね。



てんとう防止君



安全衛生お役立ち情報



○中小規模事業場 安全衛生サポート事業

専門家が現場や作業の問題を示して、改善のアドバイスを無料で行っています。対象は100人未満の事業場です。



○OSTOP！転倒災害プロジェクト

死傷災害で最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、転倒災害プロジェクトを推進しています。



○メンタルヘルス対策

労働者がメンタルヘルス不調になることを未然に防止することを主な目的としたものです。



○労働災害を減少させた 好事例の紹介

小売業、飲食店、社会福祉施設で取り組まれた企業事例を紹介しています。



○OSTOP！熱中症 クールワークキャンペーン

熱中症による重篤な災害を防ぐために、職場における熱中症予防対策の徹底を図ることを目的としています。



○小売業・飲食店の労働災害を 防止しよう

小売業の労働災害の特徴、安全衛生教育のポイント、安全活動事例などを紹介しています。



○外国人労働者の 安全衛生対策について

厚生労働省では、外国人労働者の安全衛生対策に活用いただける教材を提供しています。



○エイジフレンドリーガイドライン

高齢者の安全と健康確保のために、事業者及び労働者が取り組むべき事項を取りまとめました。



○ミライサポプラス（中小企業庁）

中小企業・小規模事業場を対象に、事業者や専門家と情報交換できる支援サイトです。

